

山形大学歴史・地理・人類学論集，第2号，1－7，2001年

## 四 国 遍 路 図 考

### A study of maps for pilgrims in the Shikoku district

松 尾 剛 次  
MATSUO, Kenji

キーワード：ライデン大学，四国遍路絵図，弘範

Keywords：Leiden University, Shikoku Henro Ezu, Kohan

#### はじめに

四国八八札所を巡る四国遍路はブームといえるほどの活況を呈し、それに関する研究も大いにさかんである<sup>(1)</sup>。しかし、どちらかと言えば、社会学的、民俗学的な研究が多く、歴史的な研究は少ない。本稿は、四国遍路の古地図である四国遍路図を紹介しつつ、併せていつ、どのようにして四国遍路八十八札所が確立したのか考察する。

もっとも、四国遍路図を網羅的に収集（24点）したうえで、四国遍路図一般を論じた岩村武勇氏の貴重な研究<sup>(2)</sup>があるが、岩村氏の研究は、十分とはいいがたい。

ところで、本稿で取り上げる四国遍路図は、神戸市立博物館所蔵<sup>(3)</sup>の3つの四国遍路図と、オランダ国ライデン大学所蔵<sup>(4)</sup>の2つの四国遍路図である。まずは、神戸市立博物館所蔵の四国遍路図からみよう。

#### 第1章 神戸市立博物館所蔵の3つの四国遍路図

##### （一）宝暦13年「四国偏礼絵図」

本絵図<sup>(5)</sup>は木版で、大きさは縦×横、58.3×93.0センチである。宝暦13（1762）年春

の刊記を持ち、四国遍路図のなかで、もっとも古く、かつ、おそらくは最初に作成された四国遍路図と考えられている。

というのも、本図の左下隅に、「高野大師讃州に御降誕在し二より、讃阿土豫一洲の四国に法化の著しき事非情の木石にも餘れり、周英延享4年の春真念の道しるべを手鏡として大師の遺蹤を拝礼せしに西国卅三所順礼等には絵図あれとも、四国偏礼にはなきことを惜しんで略図となし、覚峰闇梨の偏礼にかたらし改めて一紙の細見図となし普く偏礼の手引にもなれかしと願ふものぞかし 宝暦十三ひつしの春 但陰 細田周英敬豊」とあるからである。

著作者の細田周英は、延享4（1747）年に、真念の『四国へんろ道しるべ』をガイドブックとして弘法大師の旧跡を巡拝したが、西国三十三所の絵図はあるのに、四国遍路の地図がないのを残念に思った。そこで、まず略図を作り、それを覚峰闇梨の巡礼に際して、相談して改訂し、詳しい絵図を作成したという。管見に及んだ絵図のうち、本絵図が最も古いだけでなく、その形式（後述のようにA型と呼ぶ）は以後の絵図の標準となっており、お

そらく、その記述は信じられるであろう。

本絵図には、東・西・南・北が記され、部分図ではなく、全図であることが知られるが、以下に本絵図の特徴を指摘する。

- (1) 方位、縮尺、地形にあまりこだわらず、特に、南が上に描かれている。
- (2) 絵図の中央に、巻物を開いた枠取りの中に、大日如来像と椅子に座った弘法大師像を描き、その左側に四国遍路に関する高野山の前寺務弘範の密教的意味付けが書かれている。
- (3) 札所（楕円で囲む）はもちろんのこと、隣接する札所との位置関係・距離数、途中の城下（□で表現）、番所（・）、国境（▲）、山坂峠（ハ）、村里名（°）、川などが書かれている。
- (4) 札所の中には、取星寺、星谷、月山、満願寺、篠山など八十八所ではないもの、七つが記されている。
- (5) 本図の右下隅には次のような、大坂などからの道のりが記されている。

「海上道法 大坂より

阿州徳島へ	三十八里
讃州丸亀	五十里
播州 し留津より	
讃州高松	廿七里
備州 下村より	
丸亀へ	五里

- (6) 右上隅には、「天灯籠灯」ほかの「アシズリ七不思議」などが記されている。
- (7) 本図の左下隅の注記から、著者は但馬（兵庫県）の細田周英で、版元は大坂心斎橋筋順慶町の柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛であることがわかる。
- (8) 左上隅には「四国へんろ道しるべ 小

本一冊」とある後に、「四国へんろ道しるべ」の紹介が書かれている。

以上のような特徴があるが、他の多くの絵図で(1)、(2)、(3)は、ほぼ踏襲される。とくに、(2)は、重要であるにもかかわらず、従来全く無視されてきた<sup>(6)</sup>。絵図の中央に書かれた、四国遍路に関する高野山の前寺務弘範の密教的意味付けとは、次のようなものである。すなわち、絵図の中央の、金比羅宮と善通寺の上の部分に、

夫レ四国偏礼ノ密意ヲ云ハバ四国八大悲台蔵ノ四重円壇ニ擬シ、数多ノ仏閣八十界皆成ノ曼陀羅ヲ示ス、所謂四重ノ曼陀羅八十界其身平等ニ各々八葉開敷ノ蓮台ニ坐シ、光明常ニ法界ヲ照ス、本ヨリ不生ノ仏ナレ八十界皆成ノ曼陀羅ト□ク、仍テ八十ノ仏閣是レニ況ス、衆生痴暗ニシテ此ノ理ヲ知ラス、蓮華萎ンテ、合蓮ト成リ、仏光カクレテ闇夜ニ迷フ、今偏礼ノ功德ニ依テ合蓮開ケテ、仏光現シ、再ビ八葉ノ花台ニ坐シ、無明ノ闇晴テ、本仏ヲ覚ル、本修並ベ示スカ故ニ、更ラニ八箇ノ仏閣ヲ加ヘ、八十八ト定メ給フ、是レ併高祖大師ノ神変加持衆生頓覺ノ直道ナリ、各々早ク円壇ニ入り、自己ノ心蓮ヲ開覺シ、自心ノ本仏ヲ証知シ玉ヘト云爾

皆宝暦第十三孟春念八日

野山前寺務八十四翁弘範記

とある。その内容自体は、まず、四国を四重円壇<sup>(7)</sup>（胎蔵界曼陀羅のこと）に配当し、さらに、中台八葉院が十界ごとに存在することから、八十を言い、それに偏礼の功德により仏が八葉に現れることから八を導き出して、なぜ札所の数が八十八札所であるかを説明している。ようするに、四国札所八十八所の密教的意義付けがなされている。

確かに、その内容は牽強付会な、こじつけであり、従来は、一顧だにされていない。しかし、四国遍路の主な札所は、弘法大師の修行地という神話のある場所で、いわば、四国遍路は弘法大師の修行地のあとを訪ねるのを第一とする以上、弘法大師の法燈を継ぐ高野山の最高責任者の「お墨付き」は重要であったと考えられる。換言すれば、四国八十八札所が、それによって密教的な意義付けを与えられ、確立されたともいえるのではなからうか。

弘範については、宝暦7（1757）年に第304代の高野山金剛峰寺の検校（寺務）となり、明和5（1768）年11月29日に死去したことがわかっている<sup>(8)</sup>。現在のところ、それ以上のことはわからないが、最初の四国遍路図に彼の遍路の密教的意義付けが書かれたことは決定的に重要であった。それゆえ、以後の絵図の多くは、それを中心に書くなど、本絵図が基準となるのである。それゆえ、四国遍路図の内、(1)、(2)、(3)のような特徴、とくに(2)の特徴を持つ絵図をA型と呼ぶ。

## （二）文化4年版「四国偏礼図」

本絵図<sup>(9)</sup>は木版で、大きさは縦×横、63.4×99.0センチである。左下隅の注記により宝暦13（1762）年四国遍路図をもとに、文化4（1807）年5月に大坂心齋橋南へ五丁目の大坂書林佐々井治郎右衛門が版本として出版したものであることがわかる。

基本的に、宝暦13年「四国偏礼絵図」と同じで、違いは、左下隅に、宝暦の絵図にも記された細田周英の「高野大師讃州に御降誕在し二より、（中略）宝暦十三ひつしの春 但陰 細田周英敬豊」という刊記の隣に、「四国遍

路道しるへ 全一冊、同 細見大ノ図 折本、同 々 小ノ図 折本、文化師年 卯 五月 求版、心齋橋南へ5丁目、大坂書林佐々井治郎右衛門」とある点である。それは、四国遍路図の内容の違いではなく、版元、版年の相違を示すにすぎない。それゆえ、基本的にA型の四国遍路図といえる。

この文化4年版「四国偏礼図」は、現在も多く残り、岩村武勇氏蔵<sup>(10)</sup>のものと、あとで触れるライデン大図書館にも所蔵されている。

## （三）四国八十八箇所順拝略図

本絵図<sup>(11)</sup>は赤、黄色、青の3色刷りの版本で、大きさは32.0×42.8センチである。

本絵図は、これまで取り上げた絵図とは大きく異なり、蝶が羽を広げた形に四国を描き（南が上）、札所を記して描いてはいるが、A型の絵図にはあった四国遍路に関する高野山の前寺務弘範の密教的意味付けが書かれていない。そうした特徴の八十八札所絵図をB型と類型化する。

また、略図というように、札所（楕円に黄色で表現）と城下（四角に赤）と山（青）と札所間の里程くらいしか表現されていない。

さらに、本図の右端には、大きく「大坂入口にて宿引多くいて私方をあしく申立外宿をすゝめ候もの共御座候間、御聞入なく、おたづね御出可被下候、金毘羅参詣出船所 大坂よどやばし南づめ、かわちや甚七、備前讃伽芸州宮島下の関小倉并飛船早船毎日差出し申候、惣而船賃等格別下直二仕間、何卒賑々敷御光来を下被偏二奉希上候也」とあり、左隅にも「大坂よどやばし南詰、金毘羅四国順拝出船所、河内屋甚七」とある。それらの記載から、本絵図が、大坂の淀屋橋南詰にあった、

金毘羅四国順拝出船所河内屋甚七が作らせ、  
参詣のお客に持たせたものと考えられる。

## 第2章 ライデン大学図書館所蔵の2つ の四国遍路図

オランダ国ライデン大学図書館には、約16  
点の日本仏教関係文献が存在する<sup>(12)</sup>。それら  
の多くは、シーボルトが日本から持ち帰った  
ものと推測されている。私は、2000年8月1  
日から9月27日のほぼ2か月間、ポート教授、  
マックス・ファルスター君ほかライデン大学  
関係者のご協力を得てライデン大学に滞在し、  
それらの文献調査をすることができた。ここ  
では2つの四国遍路図を紹介したいが、まず  
架蔵番号UB417の遍路図からみてみよう。

### (一) UB417の遍路図(文化4年版「四国偏 礼図」ライデン本)

本遍路図は、まさに、先に触れた神戸市立  
博物館所蔵の文化4年版「四国偏礼図」と同  
じ絵図で、大きさが縦×横、630×980ミリ  
と少し異なっているが、計測者の相違による  
誤差であろう。内容については、神戸市立博  
物館所蔵の文化4年版「四国偏礼図」で述べ  
たのでここでは省略する。

注目されるのは、本絵図には、包紙がある  
ことだ。包紙の表には、

「御城下、番所、国境、山坂峠、村里、名  
所、旧跡、道法、付之

四国偏禮細見図

大坂書林 心齋橋南へ五丁目

佐々井治郎右衛門版」

とあって、本絵図の内容、版元が紹介されて  
いる。

他方、包紙の裏には、

「四国へんろ道しるへ 真念法師作 小  
本一冊

此書ハ八十八ヶ所縁起宝物等悉書記し、村  
つ々き道のり名所旧跡山川渡海順路都而順礼  
の心得を記ス

右前々より売弘メ申候、御求可被下候」

とあって、真念の「四国へんろ道しるべ」を  
併せて購入するように宣伝がなされている。

さらに、包紙の裏には

売弘所

阿州十八番札所

釈迦庵

恩山寺之隣

とあって、本絵図が阿波の十八番札所恩山寺  
の隣の店で購入されたことがわかる。

### (二) UB417Aの遍路図

本絵図は、大きさが43.5×52.5センチで、  
A型の四国遍路図と似ている。しかし、A型  
の四国遍路図にあった大日如来像はなく、ま  
た、弘法大師像と中央の四国遍路に関する高  
野山の前寺務弘範の密教的意味付けの部分の  
文字との方向が、90度回転している。そのう  
え、「岬宝暦第十三孟春念八日、野山前寺務  
八十四翁弘範記」の部分も略されている。

また、左下隅には、楕円は札所の印、□は  
城下の印といった凡例とともに、各国の札所  
と国ごとの総距離を記している。

さらに、海上道法には、大坂、備前、播磨  
(しま津)のみならず、紀伊、九州(播磨明  
石も)からの道のりも記されており、四国遍  
路に来る人の範囲が九州、紀伊にまで広がっ  
てことがわかり注目される。

それゆえ、本絵図のようなA型の変形とい  
える形式の絵図をA'型とする。

## おわりに

以上、5つの四国遍路図を取り上げ、四国遍路図のA型、A'型、B型の型式があることを指摘した。さらに、もっとも古い型式であるA型の分析から、宝暦13年の高野山前寺務弘範による宗教的「お墨付き」の授与により、四国八十八札所が確立したのではないかと考えた。今後、さらに四国遍路図を収集し、より分析を深めてゆきたい。

## 注

- (1) 近年の四国遍路研究史については、長田功一・坂田正顕監修『現代に生きる四国遍路道 四国遍路の社会学的研究』（早稲田大学文学部、1998）が参考になる。研究については、真野俊和編『講座 日本の巡礼1－3』（雄山閣、1996）、山本和加子著『四国遍路の民衆史』（新人物往来社、1995）参照。
- (2) 岩村武勇編『四国遍路の古絵図』（出版、1973）。
- (3) 平成12（2000）年11月24日に私と大学院修士課程の板垣幸さんとは、神戸市立博物館を訪

ね神戸市立博物館所蔵の3つの四国遍路図の原本調査を行った。そのさい、博物館の三好唯義さんのお世話になった。

- (4) 私は、2000年8月19日から9月24日にかけて、ライデン大学図書館において、調査することができた。
- (5) 神戸市立博物館架蔵番号、179。
- (6) たとえば、多くの貴重な遍路研究をものされてきた、前田卓氏は、「さして取り上げる程の価値あるものとは思われぬ」と一顧だにされていない（「江戸時代の巡礼の動き——四国遍路の動き」〈真野俊和編『講座 日本の巡礼2』雄山閣、1996）67頁）。
- (7) 以下、密教用語については、『仏教大辞彙』（富山房、1985）を参照。
- (8) 鷲尾順敬編『増訂 日本仏家人名辞書』（東京美術、1966）32－315下。
- (9) 神戸市立博物館架蔵番号、180。
- (10) 岩村前掲書〈前注(2)〉所載。
- (11) 神戸市立博物館架蔵番号、190。
- (12) 『オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録』1996、参照。

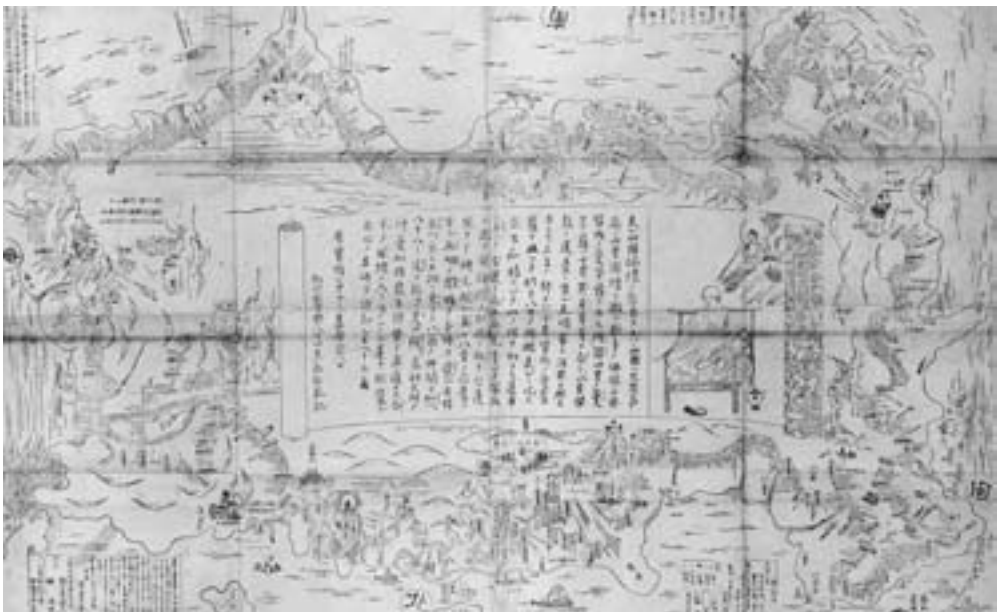


図1 宝暦13年「四国偏礼絵図」





图2 文化4年版「四国偏礼図」



图3 四国八十八箇所順拝略図



図4 UB417Aの遍路図（ライデン大学所蔵）